

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)
(項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしい生活をする事を支えるケア」を理念に掲げ実践に努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回、職員全員で話し合う場を設け、理念を共有し、個々の状態に合わせた対応ができるよう意見を出し合い統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の集まりや町の行事・イベントに積極的に参加し、折に触れ理解と協力をお願いしている。家族便りを年6回発行し、家族・推進委員に配布、地元部落には回覧し、日々の暮らしぶりを紹介している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や園芸等を通じ、近所の方と挨拶をしたり野菜を頂いたりしている。	○ 近所の方がホームに来て、一緒にお茶を飲んで頂けるような関係作りを築きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の町内会に加入し、地元の神社の祭りに呼ばれたり、獅子の訪問をしてもらったり、賽ノ神の行事にも参加している。又、地域行事・施設行事への参加や近隣の小学校の慰問・夏休みのラジオ体操の場を提供、一緒に体操をし、交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人の地域会合を通じて、認知症の理解やケアの現状についてお知らせしている。地域の方から認知症の相談も受けている。	○	地域の方と、認知症ケアに関する勉強会や、話し合う機会をつくっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行うことで、サービスの質の確認を各自が把握するようにしている。又、外部評価の結果をもとに、改善すべき点は話し合い、出来る事は実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、評価で明らかになった課題について報告している。又、抱えている問題について、メンバーから意見をもらい、生かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他に毎月開催される町のケア会議に出席、意見交換し質の向上に役立てている。又、ホームの行事にも参加していただき利用者と交流の機会を持ち意見をいただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	かつて成年後見人制度を活用する機会があり、少しは学ぶ事ができたが、全職員理解できていない。	○	勉強会や研修等で学ぶ機会を持ち、確実に活用できるような知識を得る必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング及び、日頃より職員間で利用者の関わり方について確認し合い、意見交換している。	○	法律、制度的な面で知識を得ておく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みを説明し、医療体制の実態などについても、詳しく説明をし同意を得るようにしている。特に入居条件については（退居を求める場合）詳しく説明するよう心掛けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションの機会を通じて、意見・要望・苦情等を聞くようにしており、職員間で情報を共有し、サービスに反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一月おきに家族便りを発行、日々の暮らしぶりを報告し、控えも残している。又、日々の様子の写真を廊下に掲示、訪問時、自由に見れるようにしている。金銭管理は領収書を付け毎月報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何かが他、家族会を設置しており定期的に意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映している。又、苦情等の受付場所の連絡先を掲示。意見箱も設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや毎月の職員会議の場で、職員の意見や要望を聞いたり、問いかけたりしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出等、状況に応じた勤務体制を、管理者を中心とし、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員によるケアを心がけており、やむを得ない人事異動があっても、利用者きちんと紹介し、利用者からホームのことを教えてもらうような工夫をしている。		
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	ファイルで整備・管理しており、いつでも見られるよう日頃から周知を図っている。必要なときに適宜、見直しを行っている。	○	現在、既存のものを見直しオリジナルのものを作成中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の学習会・研修・報告会等には順番に参加し復命。復命書は閲覧できる様にしてある。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者ネットワーク（全国グループホーム協会・県老協グループホーム部会）に加入。近隣のグループホームの職員・利用者と交流・情報交換を行い、質の向上に役立てている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因にも気を配り、気分転換できる場を確保したり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。法人全体の職員互助会に参加して他部署の職員と交流する事でストレス発散できるよう、取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅へ訪問し、家族を含めて話を聞く他、環境を見せてもらう。又、ホームを視察してもらい、本人との相性を見て頂いて、時間をかけ本人からの話を聞き入れるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で、本人が話しやすい雰囲気の中で、本人の希望していることや、心配していること等を傾聴し、理解しようと努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるのか、事前に話し合いをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からの情報をもとに、馴染みやすい環境づくりを配慮しながら、無理のない程度で他利用者との関わりを増やしている。見学の受け入れを行い、部屋が空いていればお試し利用を受け入れる準備がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面づくりや、言葉掛けをしている。笹団子、梅干し、沢庵づくり等、地域の特産物を教わりながら一緒に作っている。	○	利用者の得意とすることを教えていただきながら今後も活動を続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前と同じように、家族の関係が保てるよう、お便りで近況報告をしたり、家族参加の行事を計画・実施している。	○	家族会を利用し、小さな行事(笹団子作り・沢庵漬けなど)も案内をだし家族にも得意分野で活躍していただける場面を持ち喜怒哀楽を共に経験してもらいたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も家族以外の馴染みの友人・知人・近所の方の訪問があり、又、来ていただけるような雰囲気づくりに配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお薬や食事の時間は、職員も一緒に会話を持つようにしたり、役割活動を通じて利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。利用者同士、声をかけたり、励ましたり、慰めたりする場面が見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退居された家族がお礼に見えたり、立ち寄る等の関係が続いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のさりげない会話の中から本人の希望・意向を聞き、その都度対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅に訪問したり、本人や家族・関係者から聞きとるようにしている。	○	入居後も本人、家族の面会時等、なにげない会話の中から聴き取るよう心がけている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズム生活歴を理解するとともに、行動や動作から感じとり、本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用しアセスメントは担当職員が行い、ミーティング時に意見を交換したり、面会時や行事参加時、家族の意向を確認したりして作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況・効果など、毎月モニタリングを実施し利用者の状態変化や状況など、家族・本人の要望に応じて見直しを行っており、必要時は随時変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に日々の様子等を記入し、職員間で情報を共有している。新たな発見に乏しく創意工夫がなされていない。	○	職員会議等を利用し気づきの記入の仕方など勉強する機会を持ちたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ、緊急な受診・薬もらいの代行。自宅外出・外泊の送迎を行っている。選挙も希望あれば支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の場を持ち、役場・民生委員・地域住民と意見交換する機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向等に応じ、訪問理美容サービスを利用している。町独自のサービス（オムツ類の助成・タクシーの助成など）を把握し、該当する利用者に紹介希望に応じ利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加され、情報・意見交換を行う等、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望している医療機関で受診し、必要時は往診をお願いしている。（基本的に受診は家族）受診時連絡票を渡し、戻られた際に詳しく家族から状態・状況を聞き取り、薬の説明書はホームで管理・保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設時より、地域の中で認知症専門病院あり、必要に応じて受診して指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービス看護師より、緊急時等見ていただき、相談している。また利用者の情報を提供し、日頃から状態像を把握してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中、家族・病院関係者と情報交換を行い、回復状況等、退院支援に結びつけている。頻回に面会に行ってご本人を励ましたり、様子確認している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、家族と話し合いの場を持ち、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。基本的にターミナルまでは負えないスタンスであるが、実際に家族と相談して、一緒に看取ったこともあった。退居に明確な基準がある為、話し合いがしやすい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	基本的にはターミナルケアを行わない方針であり、医療面でできること・できないことを当初からはっきりと説明している。又、体調面の変化がある都度ホームでできること・できないことの説明を行っている。1人看取りを行ったケースの時は家族の意向をくみ、主治医と協力して取り組んだ。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプラン等の情報交換を行っている。また、入居時・退居時など、本人に寄り添いながら、不安など抱かないように支援するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の個性を考え、言葉掛けや対応については十分注意しているが、不適切な対応があった時は職員間で注意し、改めるように努めている。	○	その人の状況に応じた呼び方もあるようなので、呼び方については今後検討していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、本人の希望を取り入れ、個々で決定する場面をつくっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れは決まっているが、時間は決めておらず、一人一人のペースに合わせ、その人の気持ちを尊重し支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は、個々の生活習慣に合わせた支援をしている。訪問理・美容に予約を入れ、本人の好みの長さにカットしてもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に行き食材選びをし、調理も役割分担し、片付けにおいても一人一人が力を発揮できるよう支援している。又、職員も一緒に食事をし、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好を把握し、おやつや飲み物は本人の希望・生活習慣にも配慮している。季節感も味わえるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	言葉掛けやトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らし、個々の排泄状態に合わせた支援を行っている。オムツ・紙パンツ・パット類は個々の状況に合ったものを使用するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間やタイミング等、本人の希望に合わせて行っている。入浴を拒む人に対しては無理強いをせず、言葉掛け・雰囲気等を工夫し入浴して頂いている。	○	現在夜間浴に付いては希望がないが、夜間の入浴については、要望があった時は体制を整えるよう検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、活動を促し、生活のリズムを整え休息が取れるよう配慮している。寝れない方にはお茶を出し、話を聞いたりして安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり・掃除・畑仕事等、得意分野で個々の力を発揮してもらい、個々の自信・喜びにつなげている。またトランプ・かるた取り・絵合わせ・唄・体操等、個々に見合った余暇活動を実施して、暮らしに変化を与える工夫をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量に応じて、買い物に行く時には本人が支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて散歩に出掛けたり、3回/週のペースで一緒に買い物に出掛けたりしている。又、ワゴンバイクを実施し、外出できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅を見に行く仏壇、御墓参り等、利用者が要望する内容に対して、出来る限りの範囲で外出する機会を設けている。職員で対応できないものは、家族にお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・葉書などの郵便や電話を用いて、本人の力量に対し支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等が気軽に何時でも訪問して頂けるよう配慮している。また、面会に訪れた時は、お茶を出すなどして、くつろいでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束になるか研修を重ね処遇にあたっている。又、お互い注意し合い防止に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠をせず所在を確認し、個々のパターンを把握して、何時でも対処できるようにしている。また、玄関と中戸にベルをつけて、音で開閉がわかるように配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の側で記録をしたり、一緒に作業をし所在の把握に努めている。又、夜間は定期的に様子確認している。一人一人の動きのパターンを把握し、所在の確認を行い外出した場合は、さりげなく付いていき安全の配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類(薬・洗剤等)は利用者の視覚や手に入らないように棚の上に管理・保管し、刃物についても箱の中に入れ戸棚にしまい視界に入らないよう管理・保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月の職員会議の時、ヒヤリハットや事故があった場合の報告や、今後の予防対策について検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の訓練を毎年行っており、事故発生時の対応についてはマニュアルがあり周知徹底を図っている。救急救命法の講習等、定期的な訓練を実施している。(年/1回)	○	夜勤時1人の為、訓練を増やしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防署の協力を経て避難訓練を実施、定期的に利用者と共に避難訓練を行っている。又、災害時の備蓄品等も確保されている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調の変化や事故があった場合、家族に連絡を取り、今後の対応について話し合っている。折に触れ、起こり得る個々のリスクについては家族に伝え、理解をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックの他、日頃の様子を把握。日々の様子や体調の変化を見逃さず記録し、早期発見・対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬票を綴じ、職員が確認できるようになっている。また、薬の変更があった際、日誌に記入し、職員全員がその都度確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分をしっかり摂って頂き、メニューにも気を配り、適度な運動を心がける等工夫をしており、自然排便できるよう取り組んでいる。入居前は下剤を使用していたが、入居後、服用しなくなった方がおられる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや歯磨きをして頂くよう言葉掛けし、義歯の利用者は定期的に義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望・入居前の食習慣を考慮し、旬の食材を取り入れ、栄養バランスを考え献立を作成し、一人一人に合った量を提供している。定期的の特養の管理栄養士に点検してもらい、専門的アドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルのもと、感染症に対する予防への対応を実施している。利用者・家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。各感染症について流行前には研修を行い職員全員に周知している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾などは毎晩漂白し、冷蔵庫や台所・水周りの清潔、衛生を保つよう、職員で取り決め実行している。食材については残りの点検を行い、無駄の無いよう使用し、時には冷凍したり処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を生け、季節感を演出し明るい雰囲気になるよう工夫している。また玄関前に畑があり、家庭的な雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りで暖かみのある内装で、オブジェや写真等を飾り、家庭的な雰囲気となるように工夫している。家具も一般的なダイニングセットやソファを使用している。冬は和室にこたつをたて、過ごしていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファなどで、気の合う利用者同士が会話をしたり、ベランダから外の景色を見、て季節を感じたりしている。また和室で横になり、休んだり、お茶飲みをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など、馴染みの物を使用している利用者もおられるが、家族の方で持ってくるのが面倒なのか、やや殺風景な面がある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に意識して、換気や温度調節に努めている。又、各個室に換気扇もあり、必要に応じて使用し、臭いがこもらないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室・廊下などに手すりを設置して安全確保をしており、廊下は回遊できるため、身体機能が生かせ自立に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の状態を、職員全員で話し合い把握し処遇に活かしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に畑があり、季節ごとの野菜作り・草取りなどをし、活動できるような環境を作っている。ベンチを置き天気の良い日は、外でゆっくりと過ごせるようにしている。ホームの周りに木を植え季節の花・果実を楽しめるようにした。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①利用者一人一人の個性を尊重し、その方の特性を生かし、個々のペースやリズムで生きがいを持てるように支援している。
- ②特に日課は決めず、その日その時利用者がやりたい事、出来る事を、利用者自身が決定して行って頂くようにしている。又入浴は好きな時間に入り回数にこだわらないで行っている。
- ③地域で馴染みの食べ物、笹団子作り、梅干し作り、沢庵作りを利用者に教わりながら共働で行う他、家庭菜園を作り季節の野菜作り(冬菜・茄子・ピーマン・トマト・じゃがいも・葱・ししとう・青じそ)を行い収穫の喜びを食卓に出される楽しみが得られる。
- ④近所の町内会に加入し春秋祭りや冬の賽の神行事に参加し、地域住民の一員として受け入れられている。又緊急時には相互に応援しあえる体制が整っている。